

鹿島市人口ビジョン【概要版】

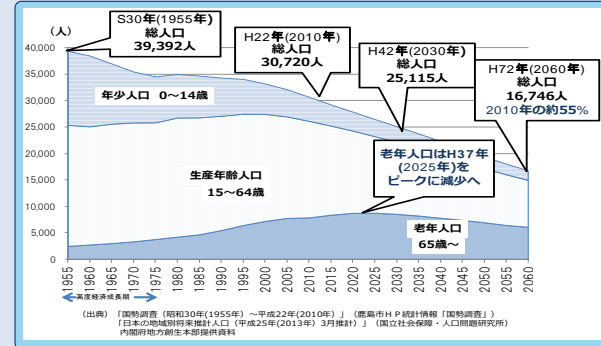
人口の現状 [2010年(平成22年)人口30,720人]

対象期間と目標年度

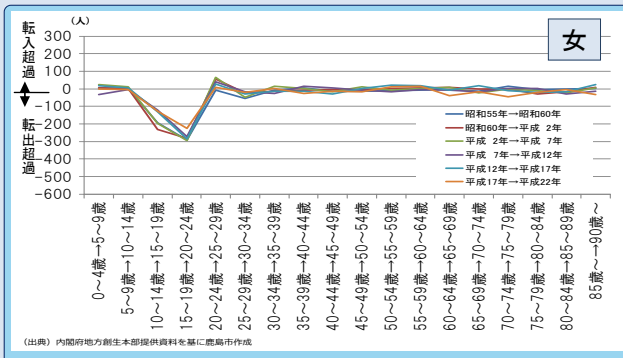
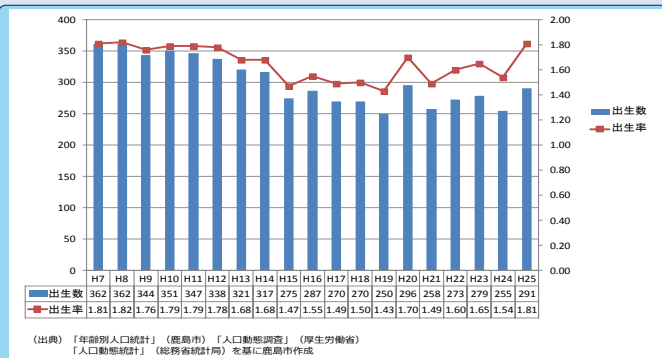
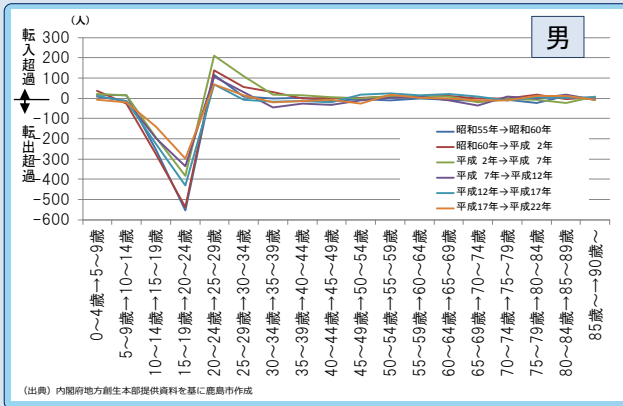
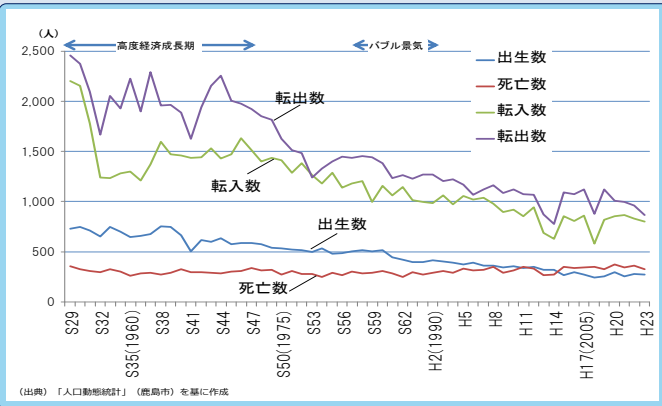
「鹿島市人口ビジョン」の対象期間は、2015年(平成27年)を起点として人口の将来展望を示しており、対象期間は2060年(平成72年)までとします。

人口動向

- 本市の人口は、高度経済成長期が始まる昭和30年(1955年)以降減少を続け、平成22年(2010年)には、30,720人と55年間で約8,700人、22%減少しています。
- 年齢3区分人口では、高度経済成長期から少子高齢化が始まり、平成12年(2000年)以降、年少人口、生産年齢人口は減少が著しく、老年人口は微増にあるなど典型的な少子高齢社会となっています。



- 本市の自然増減は、平成14年(2002年)までの自然増の状態から、それ以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」となっており、社会増減は、ほぼ一貫して転出超過である「社会減」が続いています。
- 年齢階級別の人口移動の長期的動向を30年前から見ると、男女とも15~19歳から20~24歳と20~24歳から25~29歳で人口移動が顕著であり、とくに男性の15~19歳から20~24歳の場合の転出超過の幅が大きくなっています。
- 本市の合計特殊出生率は、国、県がおおむね平成17年(2005年)以降増加傾向にあるのに対し、本市は増減幅が大きく、今後は、ここ数年の動向から1.6前後の水準は維持することが考えられます。



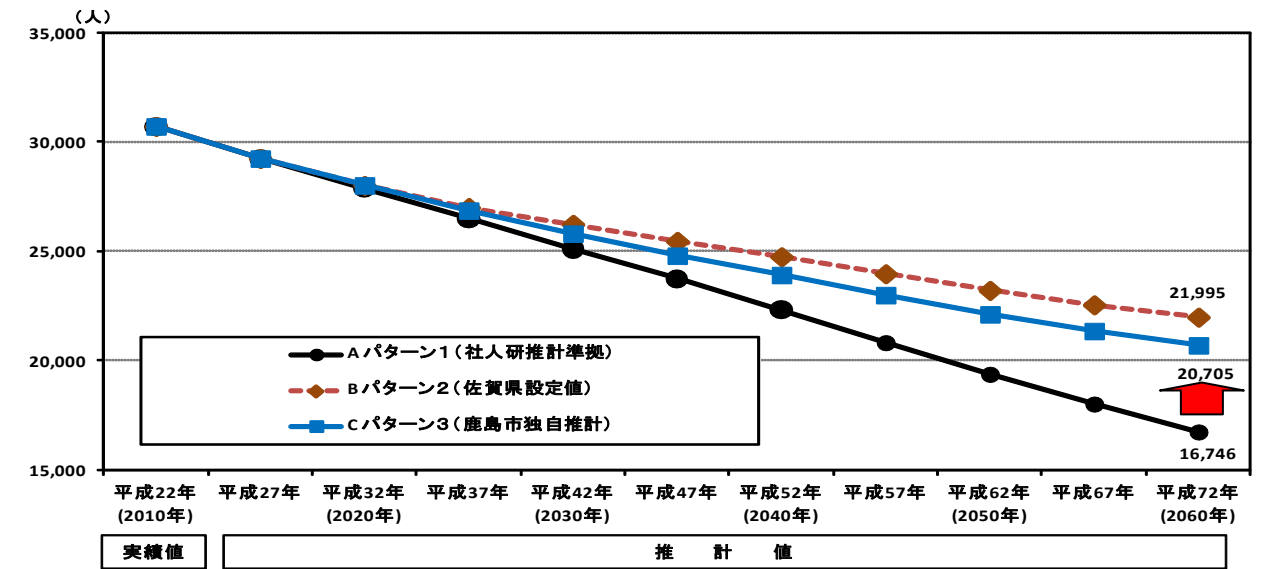
人口の将来展望 [2060年(平成72年)人口20,705人]

人口推計

このまま何もしなければ…2060年人口は16,746人まで減少(国立社会保障・人口問題研究所の推計値)

人口の将来展望

- ◆合計特殊出生率
合計特殊出生率が平成52年(2040年)から2.10
- ◆社会移動
平成37年(2025年)から平成72年(2060年)まで、前5年間の減少率が2割で緩やかに収束



	実績値 平成22年 (2010年)	推計値									
		平成27年 (2020年)	平成32年 (2030年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2040年)	平成52年 (2040年)	平成57年 (2050年)	平成62年 (2050年)	平成67年 (2060年)	平成72年 (2060年)
パターン1(社人研推計準拠)	30,720	29,253	27,881	26,489	25,115	23,751	22,314	20,829	19,382	18,021	16,746
パターン2(佐賀県設定値)	30,720	29,252	28,021	27,011	26,240	25,464	24,757	23,979	23,220	22,558	21,995
パターン3(鹿島市独自推計)	30,720	29,252	28,021	26,870	25,813	24,806	23,922	23,003	22,125	21,359	20,705

(出典) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に鹿島市作成

目指すべき将来の方向

- ◆鹿島の「ものづくり」をさらに磨きあげて、鹿島ならではのしごとを生み出す
- ◆定住促進と交流人口の拡大
- ◆若者の定住を促し、安心して結婚・出産・子育てができる環境づくりの推進
- ◆安全・安心の確かな暮らしを営む、ずっと住み続けたいまちの実現

鹿島市の将来像

- 4つの基本目標のうち「しごとづくり」に重点を置き、地域経済の活性化に取り組む。
- そのことが、若い世代の都市圏への人口の流出を止めることにつながり、安心して子どもを産み育てられる環境をつくることで出生数が増加し、すべての市民がずっと住み続けたいまちになるような環境を整える。
- 「しごとづくり」・「ひとづくり」・「まちづくり」の好循環が実現していき、国・県の施策とも相まって人口減少に歯止めをかけることにつながるものとする。